

京都府立視力障害者福祉センター 令和2年度 学校評価（自己評価）総括

【運営方針】

- ① 高い知識・技術を有するあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成を行うため、教育訓練の充実、強化を図ります。
- ② 安心して勉学に取り組める環境づくりに努め、利用者全員の国家試験合格や卒業後の就労をめざします。
- ③ 卒業後における知識・技術の維持・向上に向けた研修会等を行います。
- ④ 職員の資質向上と職員間の連携強化に努めるとともに、活発な広報活動や関係機関との連携を強化します。
- ⑤ 体験見学会の開催や広報活動に取組み利用者増をめざします。
- ⑥ 人権擁護、虐待防止、新型コロナウイルス感染拡大防止を含めたリスクマネジメントについて職員一体となって取り組みます。
- ⑦ 防災面での地域との連携や、施設機能の地域への還元等、地域から信頼され、開かれた施設をめざします。
- ⑧ 視力障害者福祉センターとしての知識・技術を法人内の他施設の利用者にも提供し、事業団全体としてのサービス向上を図ります。

【1年間の総括】

新型コロナウイルス感染の感染症拡大に伴い、緊急事態宣言が発出され4月15日から5月24日までの期間、京都府からの要請に基づき感染拡大防止と利用者の安心・安全確保のため臨時休所の措置を講じました。

臨時休所期間中であっても、学びが途絶えないよう、視力に応じた学習用資料（拡大文字・点字）の他、パソコン学習用のデータを各利用者へ配布するなど、在宅での学習を支援しました。

臨時休所期間終了後も、作成した感染防止ガイドラインに従い、感染防止対策を徹底し、また、夏季休暇の短縮や1日の授業時間数を増やすなどの工夫をしながら授業や実習を実施することで、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師（以下、「あはき師」という。）養成施設として、単位認定に必要な授業時間数を確保することができました。また、補習授業等の国家試験対策を実施し、あん摩マッサージ指圧師国家試験では、6名が受験して5名合格、はり師・きゅう師国家試験では、2名が受験して2名合格となりました。また、免許取得した利用者全員が就労することができました。

実践科目の設定で高度な「あはき師」を養成

- より質の高いあはき師を養成するため、国により改定された新しいカリキュラムの科目として、主な筋の触診や各関節運動等の観察を通じて、筋とツボの関係性や臨床で頻繁に使用される各種検査法について臨床現場で実践できるよう「生体観察」の授業（30時間/年間）を設け、学習内容の充実を図りました。

国家試験合格と就労をスタッフ総力で支援

- 模擬試験（4回/年間）や補習授業（延べ66時間）等を実施することで、あん摩マッサージ指圧師国家試験では、5名（あん摩科：3名、はり科2名）が合格（合格率83.3%）、はり師・きゅう師国家試験では、はり科2名が合格（合格率100%）となりました。（実人員で5名合格）
- 国家試験に合格した5名の内、あん摩科3名については、治療院のスタッフとして、はり科2名については、1名が企業内で従業員の健康管理にあたるヘルスキーパーとして、また、もう1名が寝たきりや歩行が困難で通院できない人に対し、主に関節の動きや疼痛を改善するための施術を提供する訪問医療マッサージ事業所に就職しました。なお、不合格となった1名についても、受験に再チャレンジできるよう聴講生として受け入れました。

地域あん摩奉仕等で地域住民の健康増進に貢献

- 地域住民の健康維持・増進とあはき師養成カリキュラムの臨床実習を兼ねて、感染防止対策を講じながら、あん摩やはり施術臨床実習を実施しました。（あん摩臨床実習：143回/年間 729名施術、はり臨床実習：52回/年間 105名施術）
- 地域住民の方々に対し、あん摩施術の無償奉仕を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、ベッドの間隔をあげ、マスク着用の上、施術前の検温・手指消毒を行う等の徹底した感染防止対策を講じ、規模を縮小しての実施となりました。（11月6日開催、参加人数49名）

体験見学会の開催等による利用者の確保

- 利用希望者に対し、実習室等の施設説明や施設見学、実習体験のほか、学習支援機器のデモンストレーション等を行い、また、施設利用に関する個別相談を実施しました。（10月17日開催 利用希望者9名参加）
- 利用者の獲得に向け、年間2回の入所試験と国家試験後の聴講生入所試験の実施により、新規利用者として、あん摩科1年生1名、はり科1年生5名、聴講生として、あん摩科3名、はり科1名を迎え入れました。（利用者計24名 前年度比0.4%減）

研修を通じた総合的な教育力の向上

- 実技や臨床実習における指導力の向上を目的として、最新の施術による作用機序についての専門的知識を修得するため「はり施術における循環への影響について」をテーマに研修会を開催しました。（8月17日開催 12名参加）
研究事例に基づいた、はり施術による血管、リンパ管の拡張と収縮への影響について学びました。
- 多様化する利用者への要望に的確に対応できるよう、外部講師によるコンセンサス（合意形成）研修会を開催し、グループワークを通じ、職員間の連携を高め、一体感ある利用者サービス提供の重要性について学びました。（3月3日開催 15名参加）